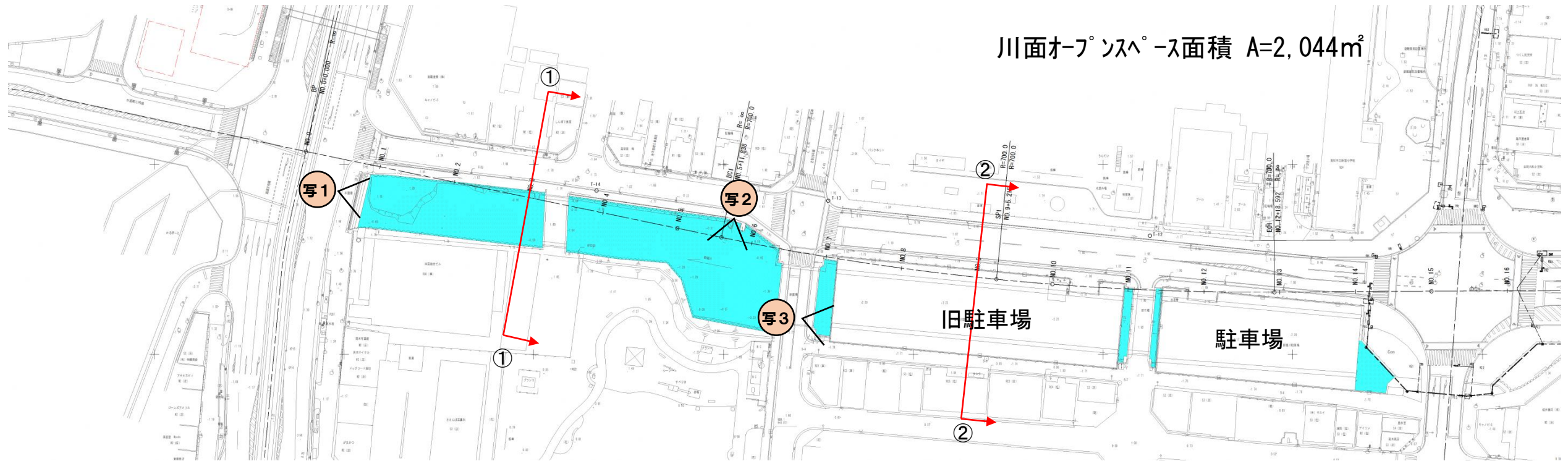
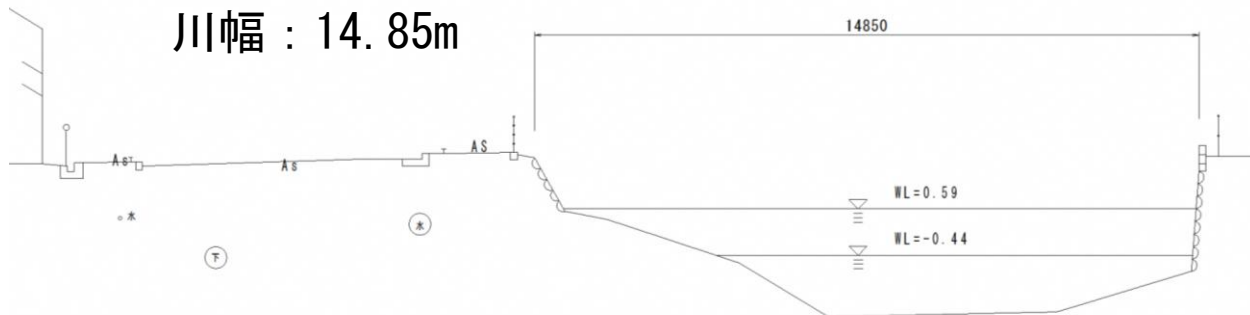


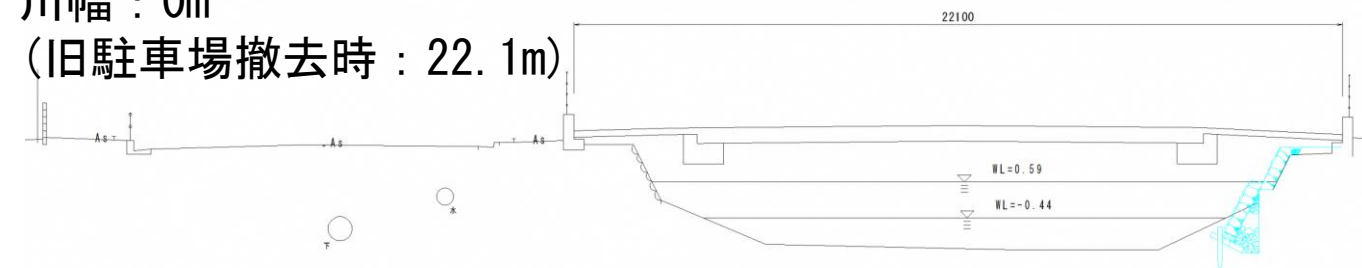
3 はりまや工区の整備のあり方



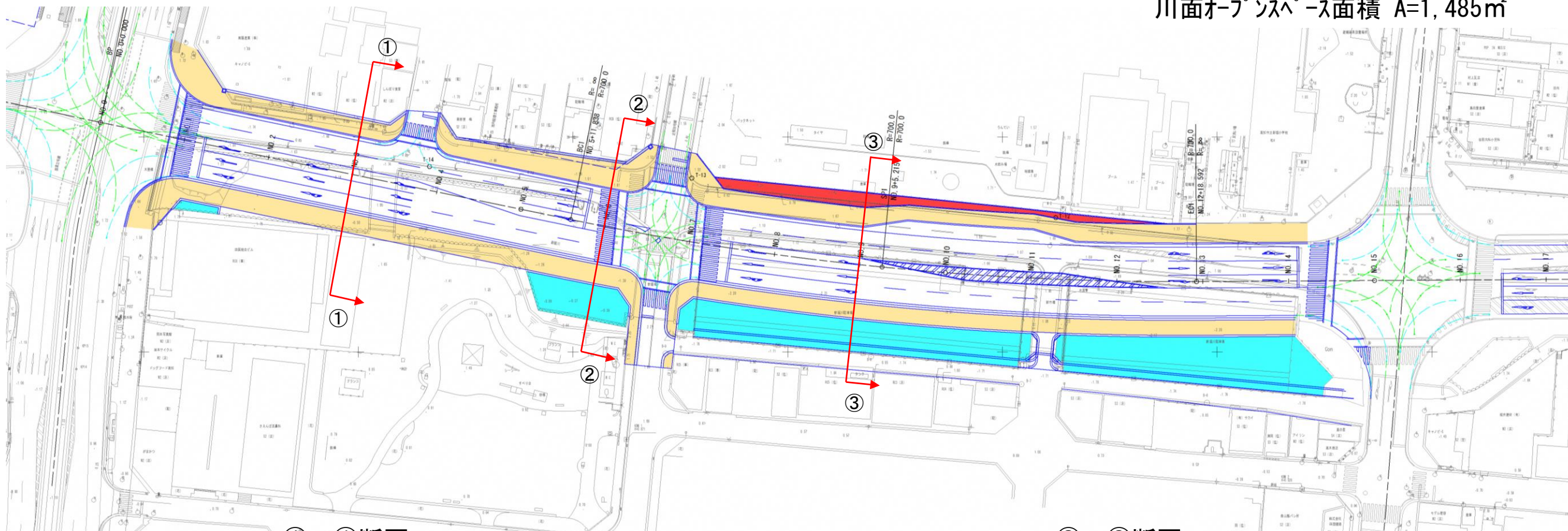
①-①断面
川幅：14.85m



②-②断面
川幅：0m
(旧駐車場撤去時：22.1m)

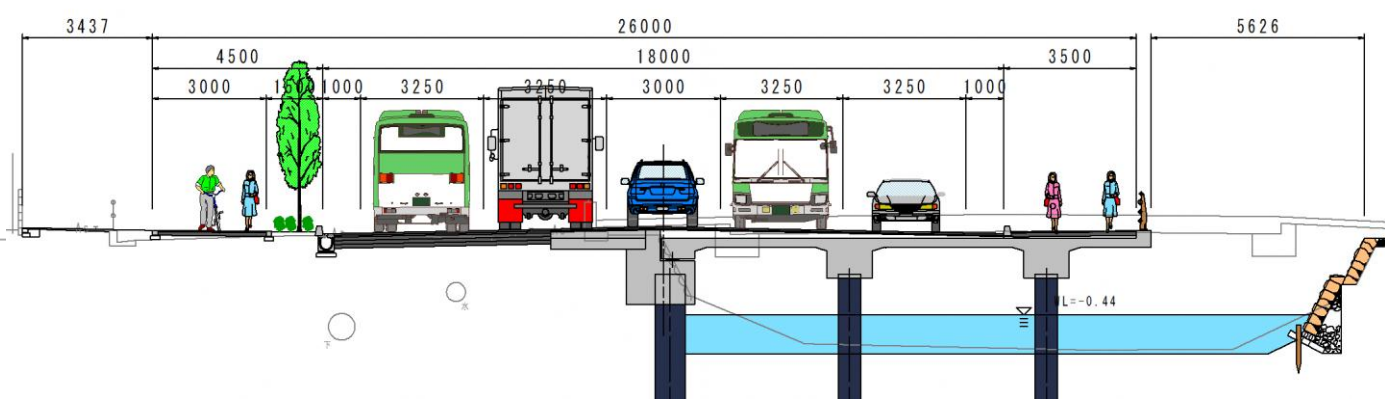
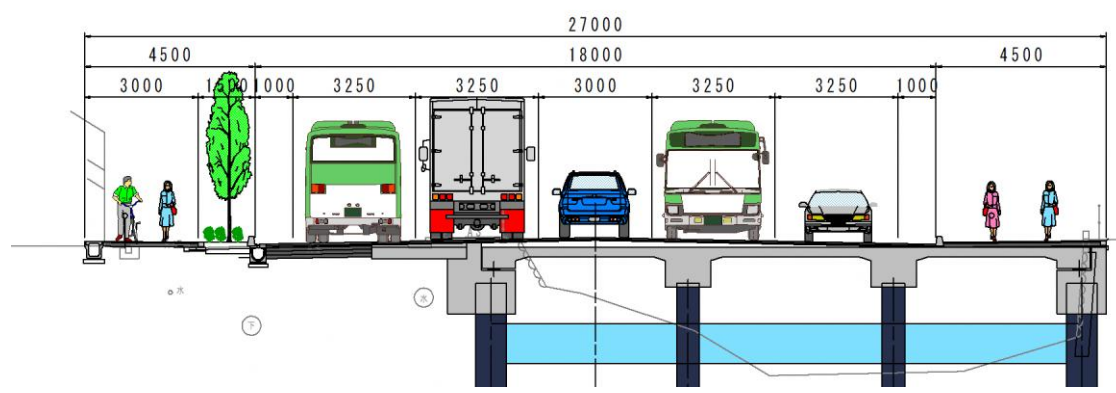


川面オープンスペース面積 $A=1,485\text{m}^2$

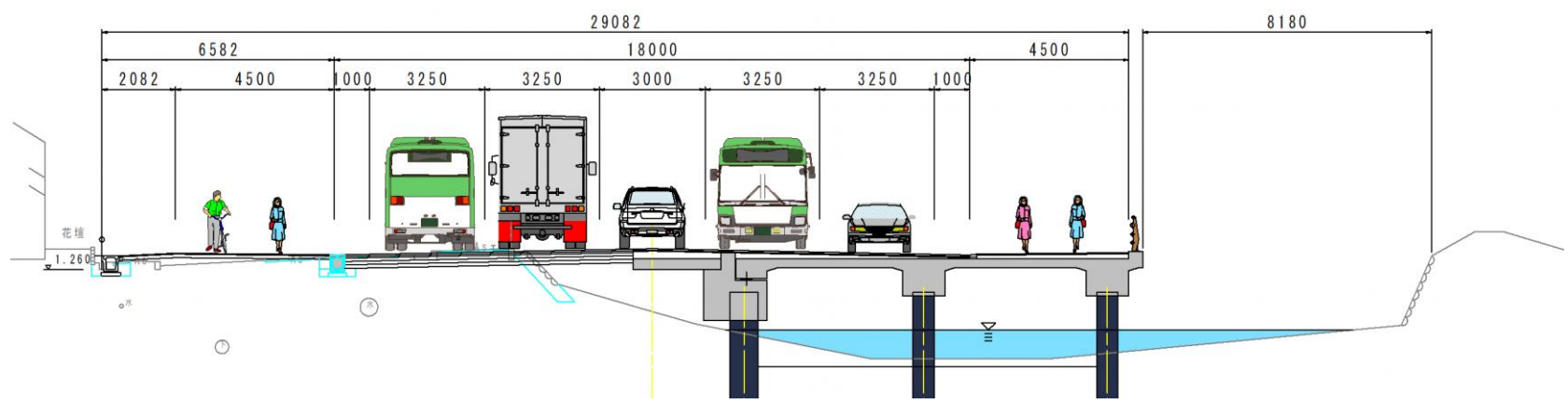


①—①断面

③—③断面

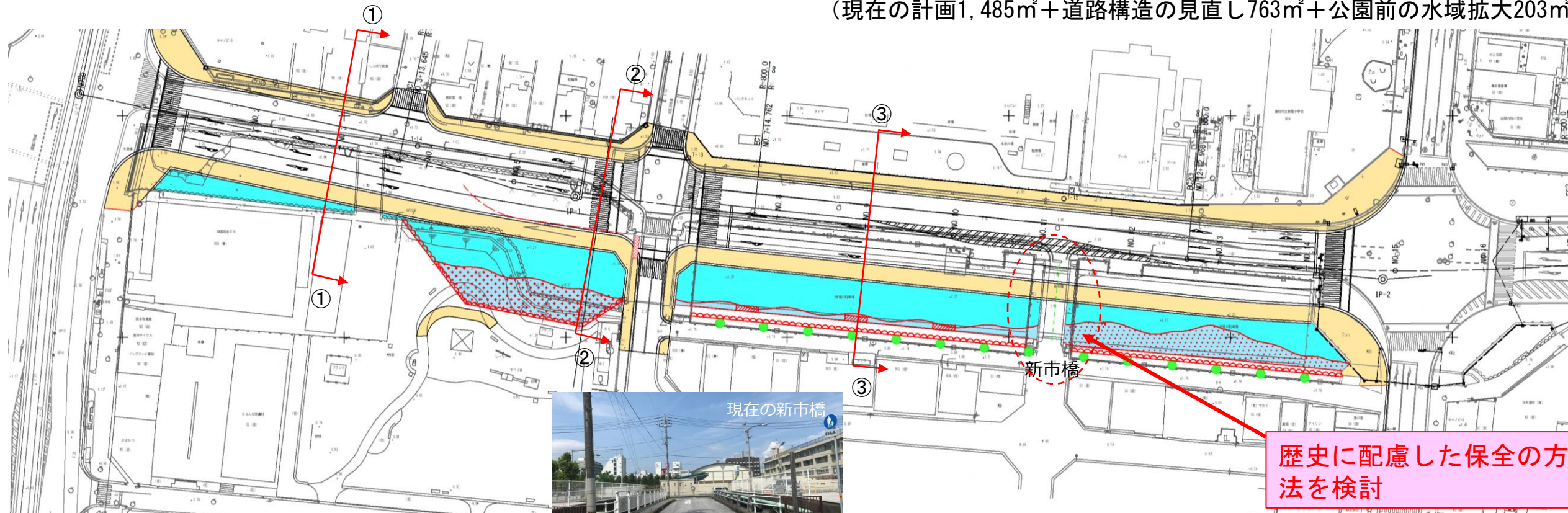


②—②断面



3. 道路構造の見直し+横堀公園前の水域拡大案 (資料6+7) (第1案) 資料8 (3/8)

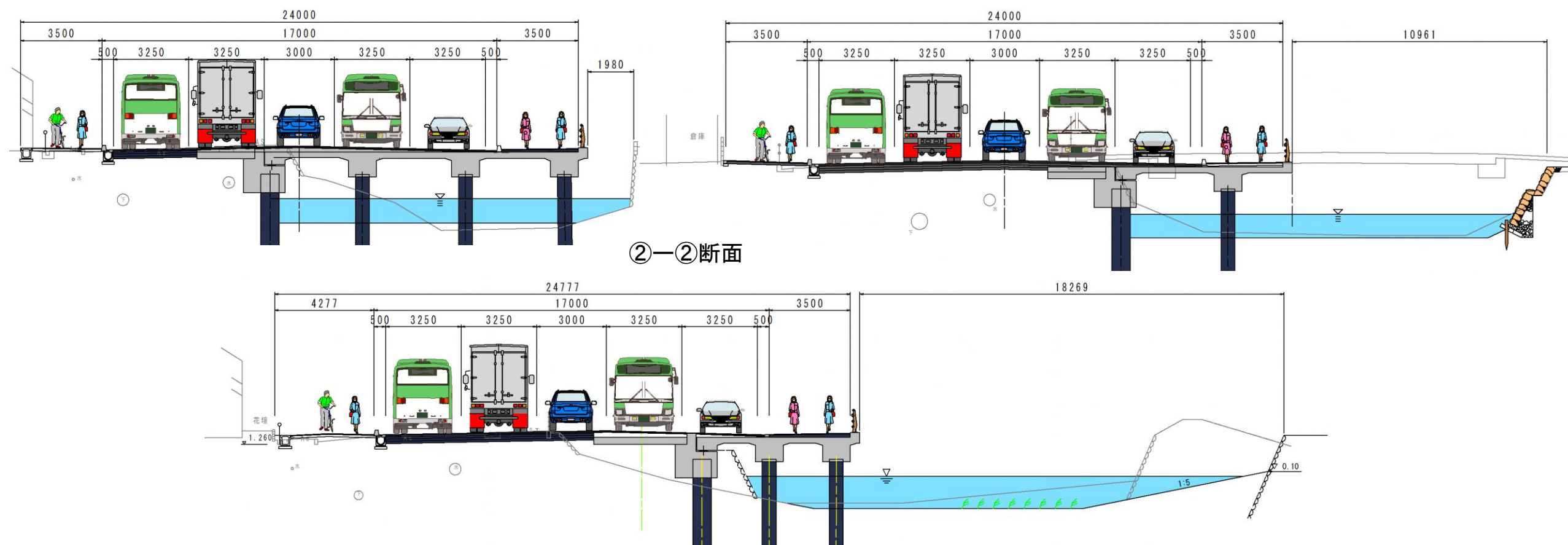
川面オープンスペース面積 $A=2,451\text{m}^2$
 (現在の計画 $1,485\text{m}^2$ +道路構造の見直し 763m^2 +公園前の水域拡大 203m^2)



①—①断面

③—③断面

②—②断面



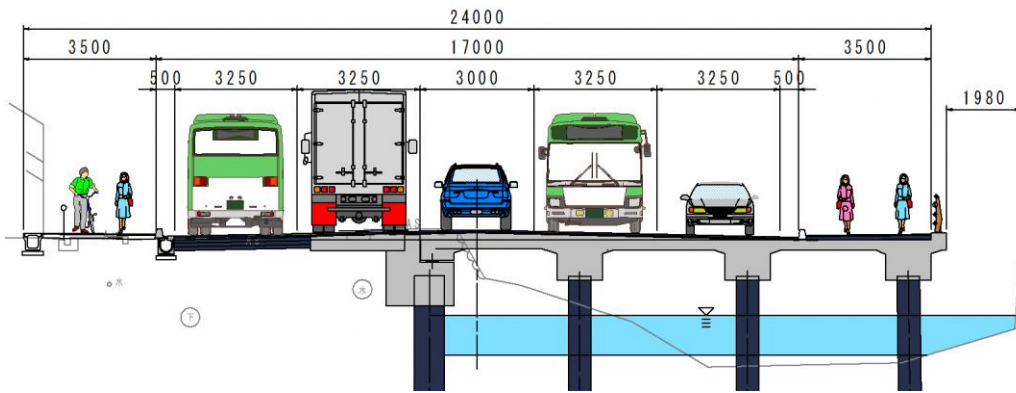
川面オープンスペース面積 $A=2,784\text{m}^2$
 (第1案 $2,451\text{m}^2$ +歩道の代替 333m^2)

東側の自転車歩行者道を無くし、自転車の安全性を確保するため、路肩を0.5mから1.5mに広げる (川面オープンスペースは 333m^2 増)

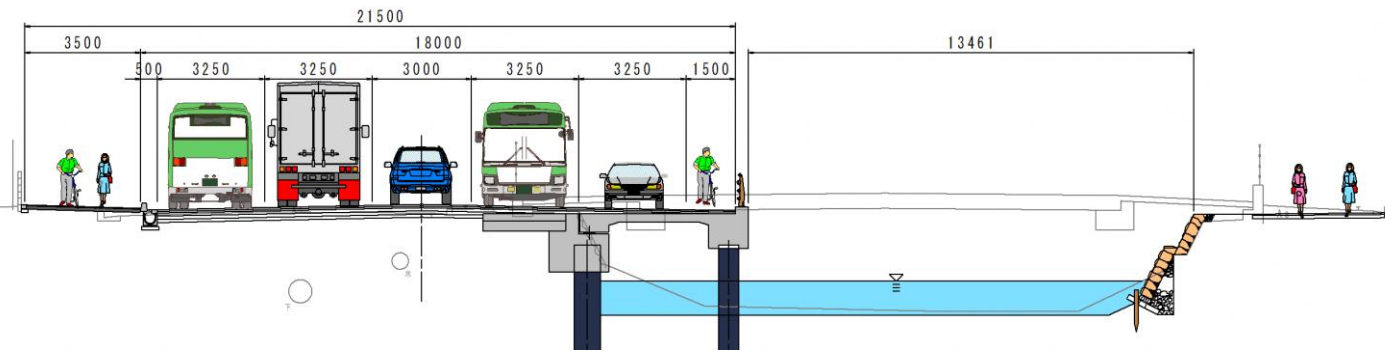
歴史に配慮した新市橋の保全を検討する

対岸の市道 (自転車歩行者道) を代替歩道として利用
 ※沿道住民への影響を考慮

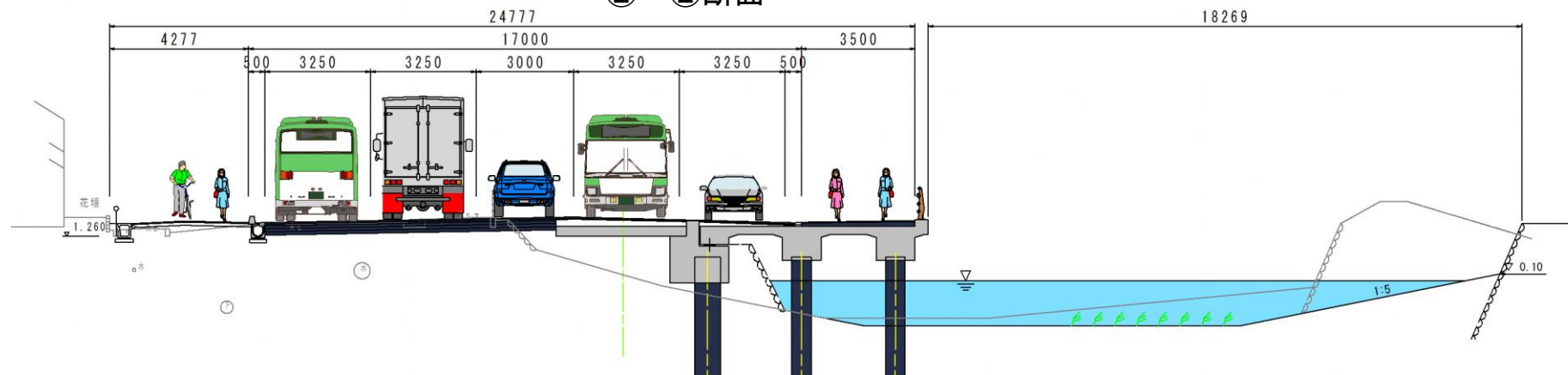
①—①断面



③—③断面

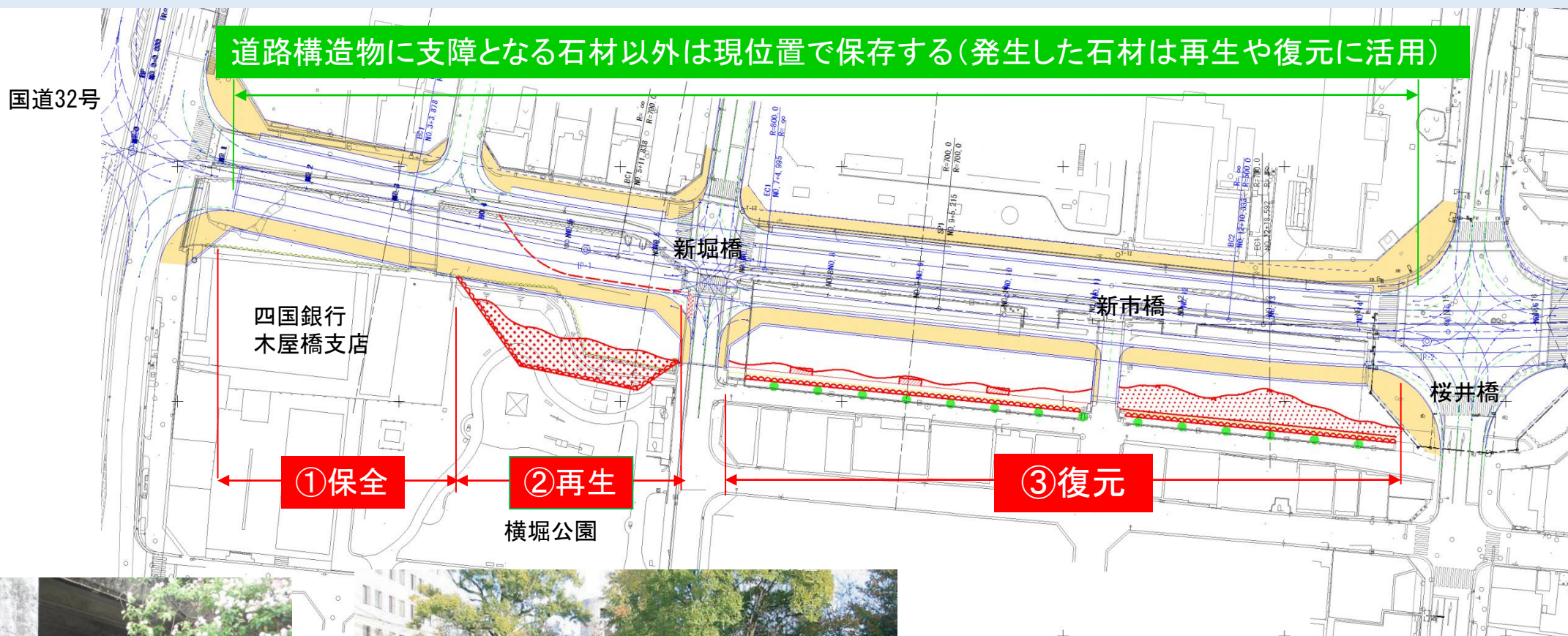


②—②断面

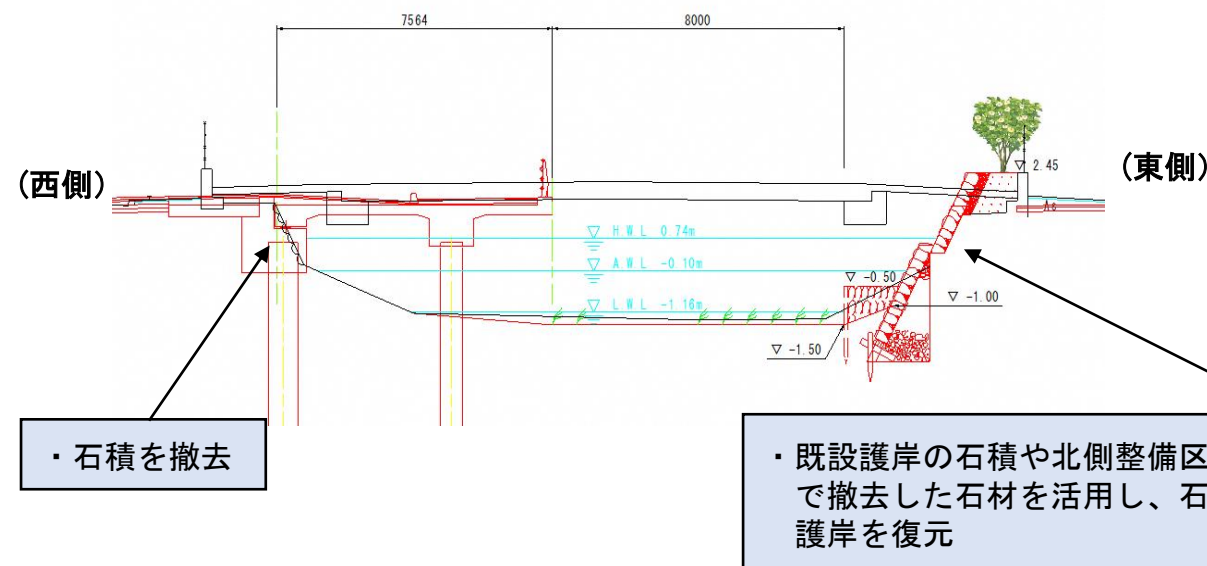


石積護岸の保全・再生・復元

- ①保全；銀行前の石積は、そのまま保全する。
- ②再生；横堀公園前は、公園の一部を切り込み、川面と干潟を創出した後に、石積を再生する。
- ③復元；駐車場撤去部は、工事により、やむを得ず撤去された石材等を活用し、石積を復元する。



石積復元のイメージ

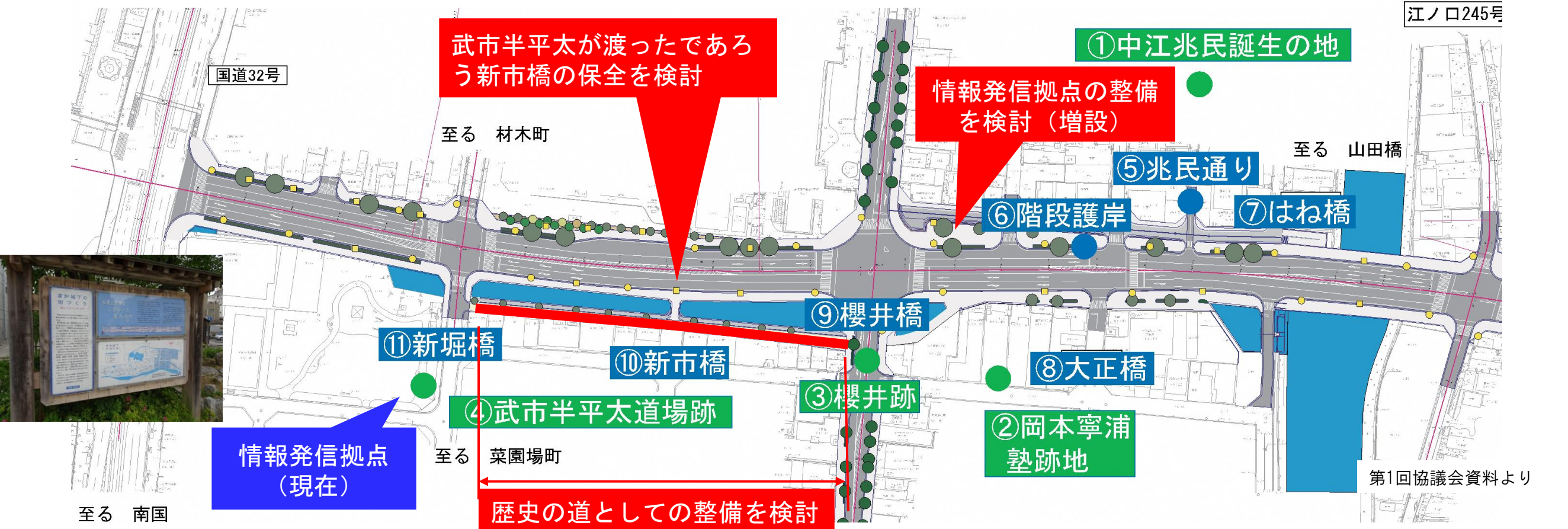


石材を活用

周辺の歴史を集約した情報発信拠点を創出

- ①情報発信拠点となる情報板を1か所増設し、歴史観光として活用
 - ・現在は、横堀公園にある情報板を拠点に周辺の歴史情報を提供
 - ・はりまや橋小学校北側の幅広歩道スペースに情報板を設置
- ②2つの情報板を結ぶルートとなる新堀川東側の歩行者専用道路を「歴史の道」等として整備

※これは、あくまで案であり、今後協議会で議論を深めていただきたい。



第1回協議会資料より

歴史資源を観光に活用 『龍馬の生まれたまち歩き～土佐っ歩～』

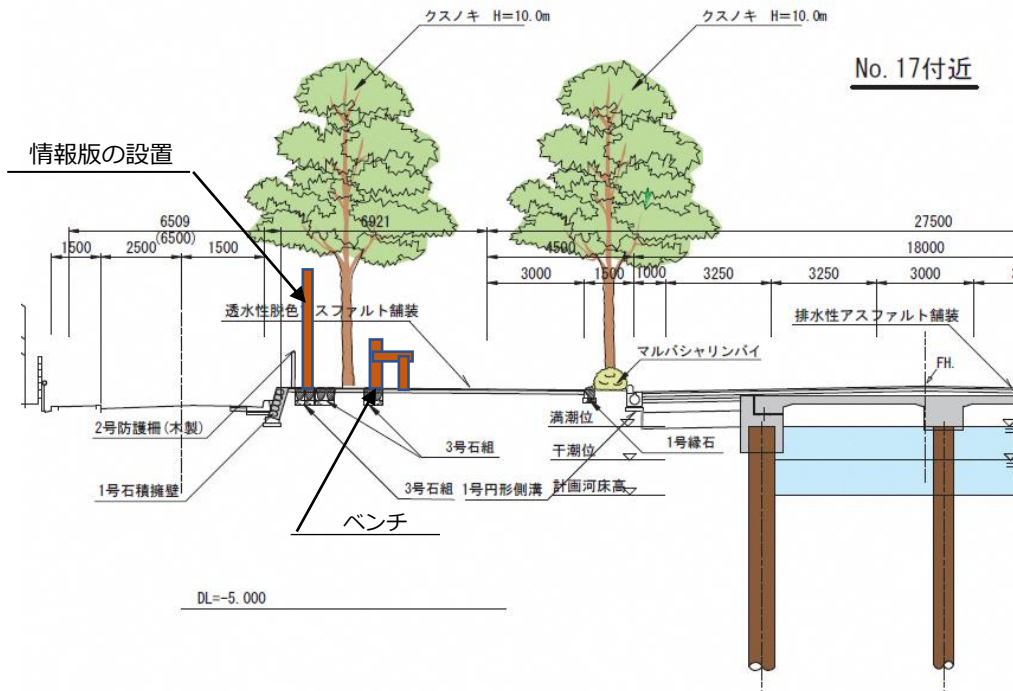
- ・高知市では、土佐弁の観光ガイドとともに、龍馬が生まれ育った風土や歴史、文化に触れながら、高知のまちを歩く「土佐っ歩」を実施
- ・ルートには、新堀川界隈の2ルートが組み込まれている
- ・江戸時代の堀割の風景が残る新堀川や、その周辺の史跡等を今後さらに観光資源として活用することが期待される



【出典】高知市観光振興課HP

【案】情報板の増設

- ・ はりまや橋小学校北側は、現在広い歩道空間が確保されており、憩いのスペースとして整備予定
- ・ 憩いのスペースには植樹やベンチと併せて情報板の設置を検討する。



※これは、あくまで案であり、今後協議会で議論を深めていただきたい。

【案】自転車歩行者道に歴史的情緒を

- ・ 駐車を撤去
 - 転落防止のため木製等の柵の設置を検討
- ・ アスファルト舗装を石畳等への変更を検討
 - 歴史を感じさせるようなもの横堀公園の延長のイメージを持たせる。
- ・ 昔の積荷場のイメージに合った植栽の検討 (柳、松、桜など)
- ・ 一部説明板や碑などを設置し、当該区間の歴史などの情報発信の検討
- ・ スペースが取れる箇所にベンチなど休憩施設の設置を検討



【イメージ】公園から続く道

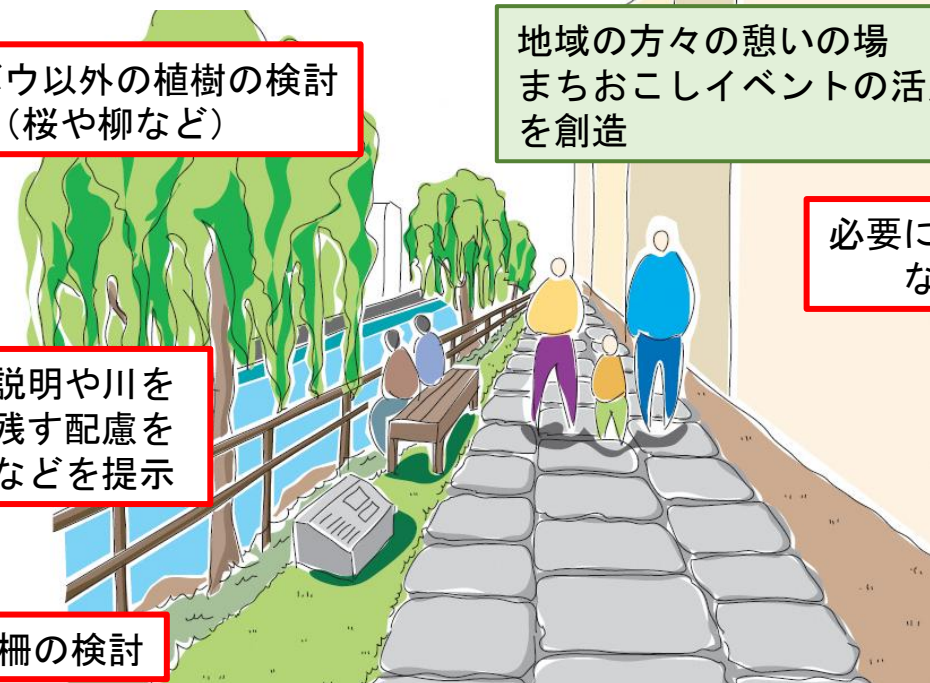
ハマボウ以外の植樹の検討 (桜や柳など)

地域の方々の憩いの場
まちおこしイベントの活用可能な空間を創造

必要に応じてベンチなどを設置

近傍史跡の説明や川をできるだけ残す配慮を行った記録などを提示

転落防止柵の検討



- ①R32から桜井橋まで石積護岸が連続し昔の堀割を再現
- ③東側市道を歴史の道などの情緒ある風情を創出

- ②横堀公園前に川面と干潟を創出

